



## 第 6 回 佐倉の第九 (市民の第九) 演奏会

2005(平成17年)12月25日(日) 14時開演

主催・会場  佐倉市民音楽ホール

L.V.ベートーヴェン

## 静かな海と楽しい航海 Op.112

L.V.ベートーヴェン

## 交響曲第9番 二短調 Op.125 合唱付き

(ベーレンライター社新版)

## 第1楽章 二短調

アレグロ・マ・ノン・トロップ・ウン・ポコ・マエストーソ

## 第2楽章 二短調

モルト・ヴィヴァーチェ

## 第3楽章 変ロ長調

アダージョ・モルト・エ・カンタービレ

## 第4楽章 二短調 合唱付き

プレスト〜アレグロ

指揮 三原 明人

ソプラノ 宮部 小牧  
 アルト 石井 恵子  
 テノール 水船桂太郎  
 バリトン 若林 浩

管弦楽 佐倉フィルハーモニー管弦楽団

合唱 佐倉第九市民合唱団

L.V.ベートーヴェン

## 静かな海と楽しい航海 Op.112

ベートーヴェンは、尊敬するゲーテの詩に曲をつけている。「ファスト」、「エグモント」、「あこがれ」などはよく知られているが、この「静かな海と楽しい航海」もゲーテの詩であり、ベートーヴェンは、混声四部と管弦楽のための作品とした。

1814年の終わりから作曲にかかり1815年夏に完成し、12月15日にウィーンで初演となっているが、1808年に作曲された「ピアノ、合唱、オーケストラのための幻想曲」Op.80と共に調の性格、リズム、主題の発展などから「第九交響曲」の礎石的な作品と言ってよいだろう。

演奏時間9分ぐらいの短い曲で、前半の「静かな海」は、静かに弦楽器の演奏から始まり、やがて合唱も静かに加わる。海の深い不気味な静かさと船乗りの不安な心理が表現されている。中間部で、風も波もない不気味な静けさに不安が高揚するが、再び静かになり、後半の「楽しい航海」へと続く。「静かな海」とは対照的にテンポの早い力強い演奏で、穏やかな風が吹き始め、航海できる喜びとなる。

丸山桂介氏によると、「この詩は一種の描写的作品であり、その背景には自然の秩序、神による自然への支配が読みとれる」と述べているが、ベートーヴェンは、この詩の背景に基づいて自然、神、宇宙の支配を念頭に作曲した「第九」につながるの意味のある作品と言える。短い「第九」同様に合唱を歌いこなすのは難しい。

## 静かな海

深い静けさが  
 水を征し (海面の水を支配している)  
 のたりともせず (ゆるやかな動きもなく)  
 海は風ぎ (海面に波はたたず)  
 遣るかたもなく (どうして良いのかわからず)  
 舟人は四方の (船頭はあたり一面の)  
 滑らかなる水面を見る (風も波もない海を見ている)  
 ひと吹き風すらない (ひと吹きのわずかな風さえない)  
 怖るべき死の静けさよ (怖い死のような静かさだ)  
 見はるかす彼方にさえ (遠く遙かを見ても)  
 ゆらく波の影さえなし (海には波たつ様子もない)

## 楽しい航海

霧は晴れ 空は輝き  
 エルオスは おずおずと紐をとく (舟の綱をゆるめる)  
 そよぐ風よ いそいそと舟人は立ちまわる  
 急げよ 急げ 波はくだけ  
 はるかなる彼の地は近づき (遠くに見える目的地は近く)  
 はや陸をわれは見ん (早くも陸が見えた)

訳詞：丸山桂介 ( )内の注釈は馬場孝之

## 交響曲第9番 二短調 Op.125 合唱付き

ベートーヴェンの時代、ヨーロッパではフランス革命が勃発するなど市民革命の嵐の時代であり、ベートーヴェンもその運動に共感していた。

詩人シラー(1759～1805)も同時代の人であった。ベートーヴェンが、人間愛と喜び、人類の平等と平和、そして神への崇敬の気持ちをこめたシラーの頌歌「歓喜に寄す」を知ったのは、故郷ドイツのボンにいた若い頃で、当時、この詩は、理想主義の象徴、人生の道しるべとして多くの人々から讃えられていた。

ベートーヴェンは、この「歓喜に寄す」に出会ったとき、曲をつけることを考えたほど感動したそうだ。22歳の時ウィーンに移住するが、その翌年から作曲への意は高まり、1798年(28歳)以降の何回ものスケッチブックから作曲への準備を知ることが出来る。

1798年のスケッチブックに、「歓喜に寄す」の詩の冒頭の言葉が書かれている。1812年には、「二短調交響曲」という字もある。1817年には「不滅のシラーの歌を歌わん」と書かれている。1822年夏のスケッチブックには、「歓喜の歌」の最初の旋律が書かれている。

1822年秋、ロンドン・フィルハーモニー協会から交響曲の作曲の依頼を受ける。この頃、ベートーヴェンは、「ミサ・ソレムニス」や「ディアベリ変奏曲」の作曲の最中であり、1823年に「ミサ・ソレムニス」が完成してから、一気に「第九交響曲」の作曲にとりかかった。

作曲は、ウィーン郊外の温泉保養地バーデンで大半を手がけ、残りをウィーンで作曲した。耳も不自由で体調が優れないにもかかわらず、1823年の10月には第3楽章まで完成。シラーの「歓喜に寄す」による合唱付きの第4楽章をまとめて、構想から約30年、1824年2月半ばに全曲が完成した。

初演は、1824年5月7日 ケルントナートーア劇場(現ザッハホテル付近)でベートーヴェンの指揮で行われ、第2楽章の途中で感動の拍手が入ったほど満員の聴衆から賞賛されたと言われている。

ベートーヴェンは生涯をかけて、この第九交響曲に向かっていた。これはスケッチブックからだけでなく、彼の主要作品の中に「第九」的な精神や音楽が宿していることからわかるのである。

市民革命から自由、民主の希求、困苦から平安を、世俗から神との一体、そして、それはすべては宇宙的存在に包容されるというベートーヴェンの信念は、シラーの頌歌「歓喜に寄す」への激しい感動とフリーメイソンの影響も作曲に反映させながら、ベートーヴェン特有の和声、変奏技法により花開いたものと言えよう。それゆえに、時代や民族を超えて、今日も全世界の多くの人々に感動と安らぎを与え続けているのであろう。

参考までに：

- 1808年(38歳) ピアノ、合唱、管弦楽のための協奏曲 Op.80 完成。「第九」の合唱に類似したメロディ。
- 1815年(45歳) 静かな海と楽しい航海 Op.112 「第九」の4楽章的な雰囲気漂っている。
- 1824年(54歳) 第9交響曲Op.125 完成。
- 1827年(57歳) 3月26日 ウィーンで逝去

## An die Freude (歓喜に寄す)

## バリトン独唱

おお、友よ、このような音でなく、もっと快い喜びに満ちた調べを 歌おうではないか！

## バリトン独唱・合唱

歓喜よ、神のような美しい響きよ、楽園の乙女よ  
我らは熱情に酔い あなたの天のような神殿に入る！  
あなたの不可思議な力は 世の習いが  
厳しく切り離したものを結びあわせ、  
あなたの優しい翼が憩うところ 全ての人は兄弟になる。

## 四重唱・合唱

大いなる恵みを受けたもの 真の友情をえたものよ、  
いとしい女性の愛をかちえたものよ、  
ともにあげよ喜びの声を！  
そうだ、たとえ人の心ひとつだけでも  
地上でわがものと呼びうる人もともに！  
これらのことができなかったものは  
涙して、この仲間から去っていくがいい。

## 四重唱・合唱

全て世にあるものは 自然の胸から歓喜を飲み、  
全ての善人 全ての悪人は 自然のぼらの小道を歩む、  
自然はわれらに口づけと葡萄を、  
死によっても隔てられぬ友を与えた。  
虫にも楽しみが与えられ、  
天使ケルビムも神の前にたたずむ！

## テノール・男声合唱

明るく太陽が 壮大な天空の軌道を飛びいくように、  
喜び進め、兄弟よ、おのれの道を、  
英雄が勝利に向かって進みいくように。

## 合唱

抱き合おう、百万の人々よ！ 全世界に口づけを！  
兄弟よ、星空のあなたに、愛する父は住みたもうのだ。

ひざまづいたか、百万の人々よ！  
創造の主を感じられるか、世界の人々よ！  
星空のあなたに主を求めよ！  
星のはるかに主は住みたもうのだ。

詩：ヨハン・クリストフ・フリードリッヒ・フォン・シラー

# プロフィール

## 指揮 三原 明人



1961年東京生まれ。東京芸術大学でヴィオラを朝妻文樹、兎束俊之、桐朋学園で指揮法を小沢征爾、秋山和慶、尾高忠明の各氏に師事。さらにゲンナジ・ロジェストヴェンスキー、カール・エステルライヒャー、ヴァーツラフ・ノイマンという大指揮者に師事。1989年、第2回キリル・コンドラシン国際青年指揮者コンクールで第2位。1996年、第8回リスボン国際青年指揮者コンクールで1位なしの3位となる。1989年、アムステルダムでチャイコフスキー作曲交響曲「悲愴」を指揮して世界の檜舞台のデビューを果たす。以後、ヨーロッパと日本を中心に指揮活動に専念している。1989/1990年のシーズン、ウィーン・フィルのコンサートでレナード・バーンスタイン、1996年、ベルリン・フィル来日公演でクラウディオ・アバドのアシスタントを務める。1995年6月、フィンランド・クオピオ市立管弦楽団のベートーヴェン特別演奏会で「第2交響曲」、「第9交響曲」を指揮し大好評を博した。1996年10月、再び同管弦楽団の定期演奏会で武満徹作品集とシベリウスの「第2交響曲」などを指揮する。さらに1997年、フィンランド独立80周年記念公演に招かれ、ベートーヴェン「第9交響曲」を指揮した。海外では、他にオランダ、ドイツ、チェコ、スロバキア、スペイン、アメリカなどで著名な管弦楽団を指揮している。国内では東京都交響楽団響、読売日本交響楽団、東京交響楽団、日本フィル等の主要管弦楽団をはじめ、多くの管弦楽団を客演指揮している。1991、1992年にかけて愛知県立芸術大学管弦楽団指揮者を務めた。「佐倉の第九」は、初回から今回で6回目の指揮となる。「第九」に関しては、いち早く最近の研究の成果をもとにした楽譜(ペーレンライター版)により指揮をしている。

## ソプラノ 宮部小牧



東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院修士課程(オペラ専攻)修了。在学時に安宅賞を受賞。文部省派遣留学生としてウィーン国立音楽大学に留学。その後、安田生命クオリティオブライフ文化財団の助成を受け、さらにウィーン国立音楽大学オペラ科およびリート・オラトリオ科にて研鑽を積む。第9回友愛ドイツ歌曲コンクール第1位および文部大臣奨励賞を受賞。ウィーンでジョイントリサイタルを行う。さらにオランダでの第49回ヘルトゲンボス国際声楽コンクール、ドイツでの2003年度ラインスベルク国際声楽コンクール、第72回日本音楽コンクールに入賞する。オペラでは「奥様女中」、「後宮からの逃走」、「フィガロの結婚」、「魔笛」、「ウインザーの陽気な女房たち」、「ホフマン物語」、「リゴレット」、「ラ・ボエーム」、「ナクソス島のアリアドネ」、「電話」、「蝶々の未亡人」(イサン・ユン作曲)の主演で出演。東京室内歌劇場公演では、2004年「インテルメッツォ」の日本初演でアンナ役、2005年「美しい水車小屋の娘」のラリケーナ役で出演し、軽妙な演技と歌唱で好評を博した。二期会・日生劇場主催のベルク作曲「ルル」にも出演している。リートなどでは、バッハ作曲「ヨハネ受難曲」、「クリスマスオラトリオ」、「ロ短調ミサ曲」などの他、ハイドン作曲「四季」、ヴィヴァルディ作曲「グローリア」、モーツァルト作曲「戴冠ミサ曲」、「レクイエム」、ベートーヴェン作曲「第九」、「ミサ・ソレムニス」、フォーレ作曲「レクイエム」、オルフ作曲「カルミナ・ブラーナ」などのソリストを務めている。二期会会員。日本声楽アカデミー会員。聖徳学園大学非常勤講師。

## ソプラノ 石井恵子



石井恵子はソプラノだが、今回の「佐倉の第九」ではアルト・パートを歌う。千葉大学教育学部音楽科卒業。在学中に文部省給費生として、パリ・エコール・ノルマル音楽院に留学。その後、都立高校音楽科教諭を経て、東京芸術大学大学院修士課程声楽科を修了。この間、秋山衛、山本敬、J.トゥーレーヌ、H.ピュイグ＝ロジェ、R.ミラー、中村浩子の各氏に師事。1991年フランス音楽コンクールで第1位(稲畑賞)を受賞。1992年日本声楽コンクールに入選。1994年から1年間アメリカに留学し、オバリン大学、インディアナ大学にてマスタークラスを受講する。帰国後、声楽活動に入り、オペラでは、ビゼー作曲「カルメン」、シャブリエ作曲「エトワール」(本邦初演)、モーツァルト作曲「フィガロの結婚」、アーン作曲「シブレット」(本邦初演)、メノッティ作曲「泥棒とオールドミス」、「電話」、フンパーディンク作曲「ヘンゼルとグレーテル」、青島広志作曲「黒蜥蜴」に出演。2004年には佐倉市民音楽ホール委嘱作品青島広志作曲「龍の雨」龍神リウの役で出演。その後も積極的にオペラ舞台に出演しており、第6回佐倉の第九の直前の12月22日、江戸川オペラ協会主催のオペラ「電話」のルーシー役で出演している。オペラ以外では、團伊玖磨作曲「紀州路」、バッハ作曲「マタイ受難曲」、「ロ短調ミサ曲」、フォーレ作曲「レクイエム」などに出演している。ステージ活動と併せて、合唱ボイストレーナー、声楽指導、植草学園非常勤講師としても活躍している。フォーレ協会。江東区および江戸川区演奏会協会。コンセール・C。二期会会員。

## テノール 水船桂太郎

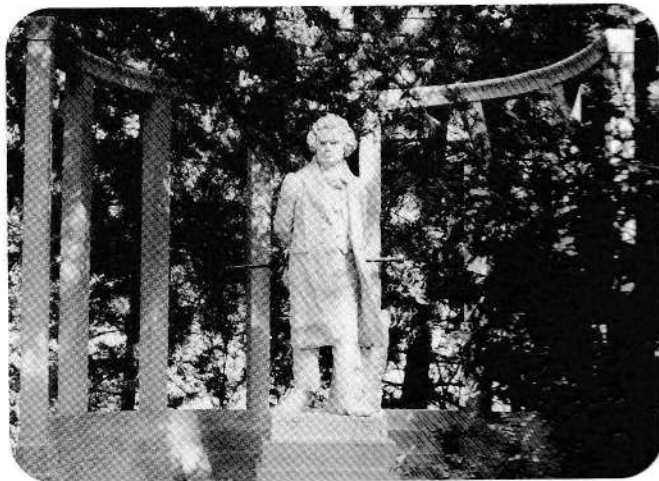


国立音楽大学声楽科卒業後、イタリア・ボローニャに留学。トリノ、ミラノ、ピアチェンツァ、レッジロ、エミーリア、フィレンツェ等でコンサートに数多く出演、フェッラーラでは教会にてミサ曲のソリストで出演。ボローニャでリサイタルを開催。スウェーデンで行われたオペラ・アカデミーオーディションで最優秀賞を受賞する。帰国後、オペラ「椿姫」のアルフレード役を振り出しに、「カルメン」のドン・ホセ役、「ラ・ボエーム」のロドルフォ役、「二人のフォスカリ」でバルバリーゴ役、「メリー・ウィドウ」のカミーユ役で出演。また横浜シティーオペラや国立音楽大学主催のモーツァルト・シリーズでオペラ「魔笛」のタミーノ役で出演し、その実力が「音楽の友」など音楽専門誌上で紹介された。2003年9月、東京二期会主催のオペラ「蝶々夫人」ピンカートン役で二期会デビュー。コンサートでは、ヘンデル作曲「メサイア」、オルフ作曲「カルミナ・ブラーナ」、メンデルスゾーン作曲「交響曲第2番賛歌」、モーツァルト作曲「レクイエム」などでソリストを務める。さらに二期会週間「花形テノール7人の若侍」や青島広志氏とジョイントコンサート、日生劇場「シリーズ音楽探検隊」、テレビ朝日「題名のない音楽会」などに出演するなど多忙な活動をしている。佐倉では、2004年佐倉市民音楽ホール委嘱作品オペラ「龍の雨」水神テンジュ役で出演。2005年は、東京二期会オペラ劇場のオペレッタ「メリ・ウィドウ」、「椿姫」、「ジャンニ・スキッキ」に出演。12月11日、新宿「第九」演奏会でソリストとして出演。二期会会員。

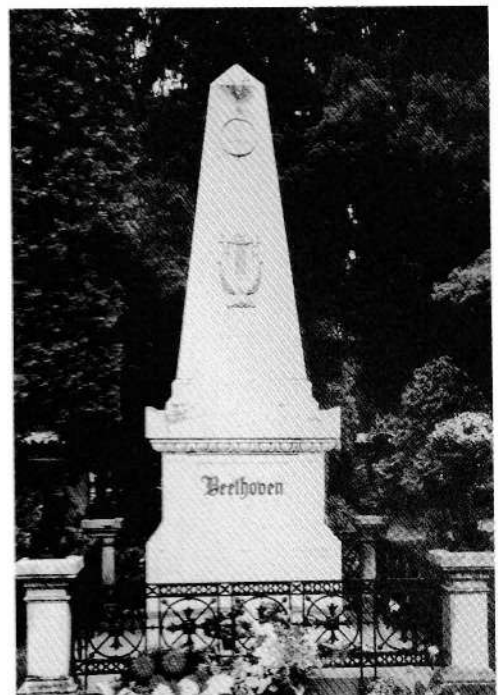
## バリトン 若林 浩



県立佐倉高校卒業。東京芸術大学音楽部声楽科卒業。声楽を畑中良輔、竹沢嘉明の各氏に師事。指揮法を高階正光氏に師事。1985年ウィーンに留学し、マリア・S・ザウアー女史に師事する。現在、教職の傍ら声楽活動を続けており、毎年欠かさずウィーンで声楽を研鑽している。ステージ活動では、東京室内歌劇場公演のオペラ「燃える炉」、「脳死をこえて」をはじめ、バッハ作曲「マタイ受難曲」、「ロ短調ミサ」、モーツァルト作曲「レクイエム」、ベートーヴェン作曲「第九」などのソリストとして活躍している。またシューベルト作曲「冬の旅」をはじめとするリサイタルやジョイント・コンサートを数多く行っている。2005年12月4日、成田国際交流コンサート「第九」のソリストで出演。京葉混声合唱団、習志野、四街道、浦安、佐倉第九合唱団の指導に係わり、「第九」の指導者として定評がある。「佐倉の第九」では、初回から6回続けて指導並びにソリストとして出演している。現在、合唱団コール・ドリーム、浦安男声合唱団、成田楽友協会合唱団の常任指揮者。千葉県合唱連盟理事。



ウィーン・ハイリゲンシュタットの公園に建つベートーヴェン像



ベートーヴェンの記念塔 (ウィーン中央墓地)

第1ヴァイオリン：	城 みどり 庄司 睦美 平野 聡	天本 幸江 ◎吉野 淳子	酒井万里子 伊藤 桜子	島津 智恵 上原 剛介	清水 俊子 齊藤 恵美
第2ヴァイオリン：	岩淵 善彦 山川奈津子	下地 清香 山口麻依子	◎二宮 伸雄 青木 晶央	畑 保子 川崎 牧子	深澤 武夫 村田 康代
ヴィオラ：	白井 英子 宮城佐知子	◎塚嶋友佳子 山田 真弓	西山 伊佐 渡部 玲子	池渕まゆみ	犬塚 佳子
チェロ：	加納由美子 深津 紘	◎清水 裕幸 福田 夏絵	門内 麻子	澤田 彩佳	瀬川 清
コントラバス：	西中 啓二 武市 佳奈	八田 英司	◎水田 裕樹	高山 修	高松 大
フルート：	土方 理絵	◎柳田 晴生	山田 綾乃		
オーボエ：	◎辻野 豊博	嶋田 房子			
クラリネット：	石鍋 豊和	◎梨木 美智	原口 豊隆		
ファゴット：	◎大平麻海子	戸塚 晃	大矢 哲雄		
ホルン：	◎小林 昌樹	阪本 薫子	坂本 直樹	柴田かおる	高嶋 浩二
トランペット：	◎佐々木直人	中山 秀嗣			
トロンボーン：	阿部 博	柴田 孝一	◎村上 茂夫		
パーカッション：	新井田久美子	若菜真紀子	岩上 晃	平野美奈子	

◎：パートリーダー 下線：エキストラ

佐倉フィルハーモニー管弦楽団は、1983(昭和58)年に市内の音楽愛好者によって結成された佐倉室内オーケストラとしてスタートした。結成以来、多くの市民、佐倉市民音楽ホールの支援により、練習、演奏活動は定着し、1988(昭和63)年の第10回定期演奏会を機に、佐倉フィルハーモニー管弦楽団と改名する。

1995(平成7)年の第23回定期演奏会まで、亀山修二氏が常任指揮者として指導、指揮を務めたが、亀山修二氏の逝去以来、多くの客演指揮者を招いて演奏活動を継続しており、今年の10月に43回定期演奏会の開催に至った。その間、地域音楽文化振興のために、学校での招待演奏やイベント等での演奏活動も積極的に行っている。

佐倉フィルハーモニー管弦楽団の第2の転機は、1999(平成11)年から始まった佐倉市民音楽ホール主催「佐倉の第九」演奏会である。市民による第九演奏会の継続を掲げた「佐倉の第九」演奏会の常任管弦楽団として位置づけられた。第4回まで連続演奏をしており、今回、5回目の出演となる。この「第九」演奏会から指揮の三原明人氏の指導を受けており、定期演奏会でも三原明人氏の指揮が多くなり、アマチュア・オーケストラとして、ますます磨きがかかっている。現在、団員は青少年から高齢者まで約60名。結成から20数年、地域に根付いた佐倉フィルハーモニー管弦楽団の、ますますの活躍が期待される所だ。

## 佐倉第九市民合唱団

佐倉第九市民合唱団は、演奏会のつど市民から公募して結成される合唱団です。今年の団員は「第九」を初めて歌うかたから佐倉以外の「第九演奏会」で歌っていたかたまで、「佐倉の第九」に連続6回出演されるかたまで、老若男女とりまぜた104名で結成されています。初回から毎回100名以上の市民による第九合唱団は珍しいといわれております。この合唱団には、練習を円滑に行うために練習委員会が作られており活発な活動を行っています。若林浩先生による練習は、毎週日曜日の夜、約3ヶ月をかけていますが、この練習以外にも基礎練習や補助練習を練習委員会の判断により行っています。まさに音楽ホールと市民の協働による合唱団といえましょう。

●ソプラノ	梅田登志子 北野直子 清水良美 ◎永倉喜代子 新田直美 本澤葉留美 渡邊紀子	大井美保 楠裕子 城後ちはる 中道睦子 廣瀬裕子 村上光枝	太田京子 黒田麗子 杉野眞弓 浪川弘子 弘山孝子 守屋和子	加藤啓子 齋藤光依 棚橋伊久子 成田保子 ◎北條教子 山田美智江	菊間靖子 佐藤右子 富樫妙子 西照子 堀中真里 山本淑美
●アルト	秋田久美子 大越美智子 金原博子 佐々木節子 ◎橘美津江 成瀬多恵子 松居美鈴	蒔重子 大澤君子 河栗節子 品田律子 棚橋美里 難波亜姫子 三橋三津枝	飯泉登美江 大谷和子 菊池清子 清水摩耶子 永倉美々 橋爪美奈子 矢野昌子	漆畑京子 甲斐崎英子 北本行代 鈴木泰江 中野隆子 堀井和子 浜野光江	江口みどり ◎勝田治子 近藤亮子 竹之下得子 成尾せき 本間節子
●テノール	伊藤康徳 ◎川島幸一 角谷薫 花田昭三	植木淳美 栗山通 橘幹夫 藤田彰夫	大賀吉郎 小林勝 田村言行 松原靖行	金子堅一 小山輝久 檀谷正彦 森下公博	◎兼島信彦 坂本勇 中村順
●バス	井田一郎 高松久長 原田和行 山岸勉	太田芳夫 滝澤孝一 菱田清勝 山崎宏和	北沢長夫 武知弘記 ◎平山直道 山中誠	工藤勲 ◎鳥井和彦 町田裕雄 山本茂樹	高橋伸幸 馬場孝之 三屋英俊 和田勲

◎はパートリーダー

### 佐倉市民第九合唱団練習委員会

委員長：蒔重子 副委員長：滝澤孝一 庶務：大谷和子 会計：蒔重子、成瀬多恵子  
会計監査：田村言行、守屋和子

### 合唱指導

合唱指導：若林浩、安藤純 合唱指導アシスタント：永倉喜代子  
合唱基礎指導：稲川明子、永倉喜代子 練習ピアニスト：天田文子、徳富香恵



ベートーヴェンの肖像画  
(1964)  
小幡春生・画  
佐倉市民音楽ホール所蔵

## 第6回「佐倉の第九」演奏会にあたり

本日は第6回「佐倉の第九」演奏会にご来場いただきまして誠にありがとうございます。前回の第5回「佐倉の第九」演奏会は、佐倉市市制施行50周年・佐倉市民音楽ホール開館20周年記念事業として、『第九交響曲』の初演(1824年5月7日)に因んで5月2日に、三原明人指揮・東京交響楽団と佐倉第九市民合唱団により開催されました。

今回は、再び年末の開催となり、また市民の自主的な運営を目指して、合唱、管弦楽団の関係者を中核とする実行委員会によって運営されています。指揮は、お馴染みの三原明人氏で、佐倉フィルハーモニー管弦楽団と佐倉第九市民合唱団によって「市民の第九」の形で演奏されます。

ソリストにはソプラノの宮部小牧さんが初登場します。石井恵子さんと、水船桂太郎さんは昨年のおペラ「龍の雨」に出演しました。そして、合唱指導もお願いしております若林浩さんです。

さて、ベートーヴェンが『第九交響曲』を書き上げるまでには半生に亘る長い前史があったという見方があります。そこには自らの若き日を回顧するような思いがあったと想像することが出来るかもしれません。遺されたスケッチには第4楽章について「音楽と歌の祭典」と書き記されているといわれていますが、そのために声楽を導入し、歌詞に若き日に会ったシラーの頌詩を用いることとなります。実際には原詩の半分ほどですが、この頌詩は晩年のベートーヴェンにどのような意味を持っていたのでしょうか？

そのようなことを考えながら、お楽しみいただければと思います。本日は「市民の第九」ではありますが、何か生きることの喜びと深まりを感じさせてくれることでしょう。改めて『第九交響曲』だけが持つ世界の豊かさに浸っていただければ幸いです。

佐倉市民音楽ホール館長 蓑輪正信

## 2005佐倉市民音楽ホール自主文化事業

### 佐倉の第九実行委員会

委員長：馬場孝之(事業プロデューサー、佐倉市合唱連盟理事長)  
委員：柳田晴生(佐倉フィルハーモニー管弦楽団)、筋 重子(佐倉市合唱連盟)  
鈴木孝一(佐倉市民音楽ホール副館長)  
事務主任：長谷川雅幸(佐倉市民音楽ホール)